

JAF F4 NEWS

Vol.3

Paddock

2022 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP

国内唯一開発競争のある
ミドルフォーミュラF4の魅力を探る

Text ● 大串 徳 (Makoto Ogushi)
Photo ● 酒井 聖一 (Seichi Sakai)

3

月第1週、モビリティライゾー
トもてぎのJAF F4選手
権シリーズ開幕戦に、思いがけないド
ライバーが参戦して話題となった。佐
々木孝太がその人である。

佐々木は1997年にJAF F4
への参戦を開始すると、翌98年には鈴
鹿シリーズ、MINEシリーズでそれ
ぞれ年間王者となり、その後のレース
人生に向けて勢いをつけた。2005
年にはSUPER GT GT300ク
ラスでシリーズタイトルを獲得。今年
は、GT300でも所属していたST
1からニュルブルクリンク24時間レ
スにSUBARU WRX STIで挑
戦するなど、現在も一線で活躍中だ。
その佐々木がなぜ古巣でもあるJAF
F4の実戦に現れたのか。



チームメイトのKAMIKAZEにアドバイスする佐々木。KAMIKAZEは過去にタイトルも獲っているジェントルマンクラスの実力者だが、同クラスは全体のレベルアップも著しい。(as)



佐々木は第6戦富士でもポール・トゥ・ウィンで、今季4勝目を挙げた。2021年もてぎ・菅生S-FJ選手権チャンピオンの佐藤樹(5号車)も食い下がったが、佐々木が余裕のレース運びを見せた。(as)



佐々木の言う「ものすごく速い方」はおそらくハンマー伊澤(写真右)だろう。富士では、予選がPP佐々木から約0.08秒差の2番手、決勝は3位。最前列を佐々木と占めることも多い。(as)

「去年からファーストカテゴリーさんで若いドライバーたちのアドバイザーを務めています」と佐々木。ファーストカテゴリーはJAF F4を通して若手ドライバーの育成を進める一方、川原悠生代表自ら参戦するなど、ユニークな活動を展開しているカテゴリーである。

「若手にアドバイスをする過程で、セッティングを出すために自分で乗ることがあったのですが、JAF F4はセッティングの幅も広いし、自分が上位カテゴリーのクルマに乗るためのいいトレーニングにもなると思いましたので、レースにも出ることにしました。今年は久しぶりにニュルに出ることになりましたが、自分のセンサー感度を上げておくことができる最適なカテゴリーだと思います」

JAF F4開幕戦に出場するにあたって、佐々木はチームから車両をレンタルした。

「F1A・F4やF3に出ようとしたらかなりのコストがかかりますが、ちょうど参戦可能な車両が1台あったので、ではそのクルマを貸してくださいとお願ひして、レンタル代をお支払いして出たんです」

佐々木の25年ぶりのJAF F4参戦に驚きつつも、大歓迎だったというのは、シリーズのアドバイザーを務めている土屋武士だ。「自分で働いて稼いだお金で参戦できる数少ないカテゴリーのひとつですからね。土屋は佐々木と同年。「ああ、走るのが好きなんだなあ」とほほえましく眺めていたという。

もしました。そういうふうには頼られると、やっぱりうれいしです。若い選手がステップアップするためのきっかけ作りをしたいと思いますので、違うチームからほとんど相談に来てほしいですね。そのかわり、オレを抜くときは気を遣って抜きなさいよと(笑)」

佐々木はドライバーとして自分の感覚を磨くために実戦へ参加し、佐々木

「若手が越えるべき壁」なのに、そのためのヒントも聞ける！

と戦うドライバーたちは多くの経験を積んできた佐々木からアドバイスを得られる。いわゆる「ウイン・ウイン」の関係だが、佐々木のシリーズ参戦はそのほかの面でも好影響をもたらすことになりそうだ。土屋は言う。

「孝太選手と一緒に走っている選手は能力を見抜けると思います。高い能力を持つと評価できる選手がいたら、どなたかにその選手を紹介することになるでしょうし、僕だって、そういう選手を見つけたら、何かしらのアクションを起こします。お金がなくてレースができないという若い子は少なからずいて、才能が埋もれてしまうのは非常にさびしいことです。このシリーズには、そういう選手たちをステップアップさせたいと思っておじさんたちが結構関わっているんです」

当初はニュルへのトレーニングのため開幕戦だけのつもりだった佐々木だが、その後も機会が許す限り参戦を続けている。

「このシリーズをみんなで盛り上げた。僕に負けた悔しさをバネに、上を目指す若い子たちがもっと頑張ってくればうれいしです。それとは別にジェントルマンクラスがありますから、

OB アドバイザー 佐々木孝太 土屋武士



対談
理由

開幕戦に出走するや、佐々木はポール・トゥ・ウインを決めた。実績のあるベテランが突然現れてレースを支配してしまつと、若い選手やジェントルマンドライバーのヤル気を削いでしまふのではないかとも思われるが、土屋はそうした懸念をきっぱりと否定する。

「逆ですよ。孝太選手はGT300のポールポジション獲得最多記録(高木真一とタイの13回)を持っているし、たくさんクルマを優勝に導いてきました。ステップアップを目指してJAF F4を戦っている若い選手は、佐々木孝太を超えない限り、先はないわけです。孝太選手は若い選手たちの指標としてとてもありがたい存在です」

一方、久しぶりの参戦となった佐々

木もシリーズのレベルの高さに驚いているという。

「ものすごく速い方がいて、開幕戦では勝ってたけど、その後もやるなら、かなり真剣に取り組まないと負けちゃうぞと慌てました」

前述のとおり、参戦と並行し、佐々木は若手育成のためのアドバイスもこなしているが、いまではチームの枠を越えたものへと進化している。

「僕たちのチームのドライバーは僕らの車載映像やロガーを見放題ですが、先日は違うチームの選手も、『タイムが出ないので車載映像を見せてください』と相談にきました。もちろんオープンですからほとんど見せて、こうやって走ったほうがいいよというアドバイス

その方たちとは純粹にレースを楽しみたいですね。JAF F4を通じて親しくなったおっさん同士でスパー耐久やGTにチャレンジしようという流れができることもあるかもしれません。だから今後も、チャンスとスケジュールが合えば出たいと思っています。ここまで来たら、チャンピオンも欲しいですね(笑)」



F4選手権はダンロップタイヤのワンメイクレースです。

